

# 2021（令和3）年度 公立鳥取環境大学 SDGs 事業実績

2022年3月

## TUES Activities for SDGs

Tottori University of Environmental Studies

Sustainable Development Goals



## <目次>

|   |    |
|---|----|
| 1. 教育.....  | 1  |
| (1) 授業等含めたSDGs教育の推進.....                          | 1  |
| 2. 研究.....  | 3  |
| (1) 外部及び学内競争的資金等獲得によるSDGs研究の推進.....               | 3  |
| 3. 地域貢献・地域連携.....                                 | 3  |
| (1) SDGs達成に向けた学生等の地域連携活動支援.....                   | 3  |
| (2) SDGs推進のための行政、経済団体、企業、NPO等との連携.....            | 4  |
| (3) 地域住民向けのSDGsの情報提供及び地域住民と教員及び学生等が議論を行う場の提供..... | 9  |
| 4. 広報活動・情報発信.....                                 | 11 |
| (1) 本学Webサイト、大学案内等で本学のSDGsの取組や学生等活動を掲載.....       | 11 |
| (2) 本学主催SDGsイベントの広報物(チラシ等)へSDGsのロゴ、アイコンを使用.....   | 11 |
| (3) 学生等のSDGsへの関心を高めるための積極的な情報発信.....              | 11 |
| 5. 大学運営等.....                                     | 12 |
| (1) EMSとSDGsとを関連付けし、PDCAサイクルを活用することによる目標の達成.....  | 12 |
| (2) 多様な学生支援を行うことにより「誰一人取り残さない」ように努める.....         | 12 |
| (3) 教職員等に対するSDGs啓発、研修等の実施.....                    | 12 |



2021年、公立鳥取環境大学は創立20周年を迎えました。  
今後も創立以来目指してきた「持続可能な社会の実現」のためSDGsに取り組んでいきます。

## 1. 教育

### (1) 授業等含めた SDGs 教育の推進

- SDGs を知り SDGs の達成に向けた取り組みを多角的に考えることを目的として人間形成科目「SDGs 基礎」を継続して開設。

- シラバスに SDGs17 の目標との関連表を継続して掲載し授業内容の充実に努めた。

- 鳥取県内を中心に地域福祉事業を行う企業経営者の方とオンライン交流 (2021 年 5 月)

プロジェクト研究 1・3「テーマ：鳥取県を対象とした福祉のまちづくりについて考える」(経営学部 佐藤彩子 講師担当)において、鳥取県内を中心に地域福祉事業を行う N.K.C ナーシングコアコーポレーション合同会社(米子市)の神戸貴子 代表と、介護保険制度の問題点やそれを補う仕組みづくり等について、環境学部・経営学部の 1・2 年生がオンライン交流会を行った。交流会では、住み慣れた地域で高齢者が生活していく上で必要な事柄が、介護保険制度内のサービスで支援可能かどうかを具体的な場面を想定しながら、クイズ形式で学んだ。



- (株) 松田安鐵工の専務取締役をゲスト講師としてお招きし講義 (2021 年 7 月)

経営学部【共生経営論】の講義(中尾悠利子 准教授担当)では、鳥取市に本社を置く松田安鐵工 福嶋明子 専務取締役をゲスト講師としてお招きし「明日の私たちを創る」と題して、従業員と共に 3S 活動や SDGs 等の新しいことに果敢に挑戦されている同社の取り組みについてお話しいただいた。



- 複数拠点を繋いでのリモート講義 (2021 年 7 月)

キャリアデザイン B (2 年生配当科目) では、本学(鳥取)とソフトバンク(米子、東京)、学生間を多元的に繋いでのリモート講義を実施。本学では低学年から「働く」ということに理解を深めるためキャリアデザイン科目を開講。

2 年生向けキャリアデザイン B では、外部から講師をお招きし、お話しをうかがい、多様な働き方を知ることで職業意識を高め、自らのキャリアデザインの一助としている。



- 鳥取ガス(株) とオンラインにてディスカッション (2021 年 7 月)

プロジェクト研究 1・3(経営学部 中尾悠利子 准教授担当)のメンバーが、鳥取市に本社がある鳥取ガスとオンラインにて、働きやすい会社への提案に関するディスカッションを行った。災害時や顧客との関係、SDGs の目標等に関する学生からの質問に対し、同社の事業に応じた普段からの危機時を想定したきめ細かな対応や事業を通じた社会貢献への姿勢等を述べていただいた。

- SDGs+English オンライン短期留学 (2021 年 8 月)

本学の海外派遣先教育機関の一つであるワーナーパシフィック大学附属語学学校パシフィックインターナショナルアカデミー(アメリカ合衆国オレゴン州ポートランド)が提供する SDGs と英語を学ぶオンライン短期留学に本学の学生が参加。期間は 2 週間で、Web 会議システムを使ってアメリカでのライブ授業を自宅で受講するスタイル。週末を除く、毎日午前 9 時から 11 時まで計 20 時間、日本の他大学の学生と共に受講した。



●ソフトバンク（株）CSR本部の方をゲスト講師としてお招きし講義（2021年11月）

経営学部【経営戦略論2】の講義（中尾悠利子 准教授担当）では、ソフトバンクCSR本部 高際均 様をゲスト講師としてお招きし「ソフトバンクの経営戦略」と題して、同社の経営理念である「情報革命で人々を幸せに」という考え方のもと、SDGsに掲げられている17のゴールに即した社会課題解決を行う最先端の事業についてお話しいただいた。



●国際交流イベント「オンライン de 国際交流」を実施（2021年6月～7月）

Web 会議システムを用いた国際交流イベント「オンライン de 国際交流」を前期に4回実施。

- ①ドイツの再生エネルギーとゴミ
- ②オーストラリア特有の単孔哺乳類や自然保護に取り組む国立公園レンジャーの仕事
- ③フィンランド教育から見る『自分を生きる』ということ
- ④ポर्टランドでの持続可能性



●国際交流イベント「オンライン de 国際交流パートII」を実施（2021年11月～12月）

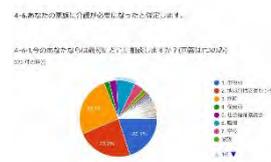
Web 会議システムを用いた国際交流イベント「オンライン de 国際交流パートII」を後期に4回実施。

- ①セントラルクリスチャンカレッジオブカンザス留生活報告
- ②カナダ・ユーコン準州の歴史・文化・自然紹介
- ③マレーシア短期語学留学報告
- ④ニュージーランドの専門留学解説



●若者の介護意識についての調査アンケートを実施（2021年11月）

経営学部 佐藤彩子 講師と、鳥取県内を中心に地域住民と連携した高齢者支援事業を行うN.K.C ナーシングコアコーポレーション合同会社（米子市）（神戸貴子 代表）、遠距離介護支援協会（藤吉航介 事務局長）は共同で「若者の介護意識についての調査アンケート」を実施した。



●宇沢国際学館代表取締役による「SDGs 基礎」特別講義（2021年12月）

宇沢国際学館代表取締役で内科医 占部まり 氏による「SDGs 基礎」特別講義（経営学部 中尾悠利子 准教授担当）「SDGs と社会的共通資本を考える」を実施。占部氏は、鳥取県米子市出身のノーベル経済学賞に最も近いと称された経済学者の故・宇沢弘文 氏の長女で、宇沢氏が提唱した社会的共通資本と地域医療の課題に関する研究・講演活動をされている。講義のなかで、持続可能な開発目標（SDGs）と関連づけながら社会的共通資本とは何かを説明いただいた。



●（株）エナテクス取締役経営戦略室長をゲスト講師としてお招きし講義（2021年12月）

経営学部【環境経営論】の講義（中尾悠利子 准教授担当）では、鳥取県倉吉市に本社があるエナテクスの取締役経営戦略室 牧野健治 室長をゲスト講師としてお招きし「社会と企業の共栄共存について」と題して、同社の地域貢献や同社の事業を通じた環境負荷低減への取り組みや主体的に SDGs に取り組む組織づくりをお話しいただいた。

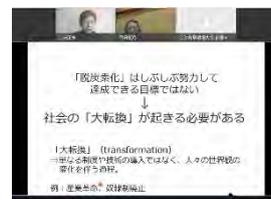


●中国庭園燕趙園で異文化交流会を実施（2021年12月）

外国人留学生サポーターの活動の推進及び学内の国際交流に関心を持つ学生を増やすことを目的として、中国庭園燕趙園で異文化交流会を実施。外国人留学生と日本人学生が中国庭園燕趙園で中国の昔ながらの庭園を見学、雑技鑑賞、中国の伝統的な遊びを体験する等様々なことを通じて交流を行った。



- 国立環境研究所地球システム領域副領域長をゲスト講師としてお招きし講義（2022年1月）  
国立環境研究所地球システム領域副領域長 江守正多 氏による【環境政策論】特別講義（環境学部 甲田紫乃 講師担当）をオンライン開催。「気候危機のリスクと社会の大転換」というテーマで、一般の参加者と本学の学生とで質疑応答を交えながら講義を実施。講義では、世界の平均気温上昇の原因は人為的要因が多くを占めることは疑いの余地がないこと、このまま温室効果ガス排出量を減らす対策をしなければ、将来の世代や発展途上国の人たちに深刻な被害をもたらすこと、環境倫理の観点から日本人の脱炭素への価値観の大転換を起こすことが 1.5℃上昇を抑える努力につながることを、といったお話しをいただいた。



- 環境学部甲田ゼミと経営学部佐藤ゼミが成果発表（2022年2月）  
環境学部甲田ゼミ3年生と経営学部佐藤ゼミ3年生は地域イノベーション研究センター事業として今年度、(株)Workplays（鳥取市）と協働で取り組んできた「地域課題解決型インターンシップ」に関する成果を、鳥取県立岩美高等学校の生徒とその関係者、鳥取県教育委員会関係者の前で発表し交流を図った。



## 2. 研究

### (1) 外部及び学内競争的資金等獲得による SDGs 研究の推進

- 2021年度学内特別研究費に採択（22件）された研究課題とSDGsとの関連性を整理。そのなかでSDGsとの関連性が高い（SDGs特別研究助成区分）6件の研究の研究者がサステナビリティ研究所の研究者として研究を行った。

#### 【研究員】

| 所属   | 氏名     | 職名  |
|------|--------|-----|
| 環境学部 | 戸苺 丈仁  | 准教授 |
|      | 佐藤 伸   |     |
|      | 山口 創   | 講師  |
| 経営学部 | 倉持 裕彌  | 准教授 |
|      | 中尾 悠利子 |     |
|      | 佐藤 彩子  | 講師  |

## 3. 地域貢献・地域連携

### (1) SDGs 達成に向けた学生等の地域連携活動支援

- 学生企画イベントを開催  
学生コーディネーターを中心に、地域と学生をつなぐ場の創出に向けたイベントを開催。本年度は、本学OBで「もちがせ週末住人」共同代表/大山町地域おこし研究員 松浦生 さんを学生コーディネーター指導員として、学生コーディネーターと伴に「鳥取のオモロい人と出会う！」をオンラインで、以下のとおり実施した。

- ・第1回テーマ「魅力発信の達人と出会う！」（2021年4月）  
ゲスト：(株)とっとりずむ代表取締役 酒本勇太 さん
- ・第2回テーマ「ものづくりの達人と出会う！」（2021年5月）

ゲスト：ねじまき鳥靴工房 松本豪平 さん

- 第3回テーマ「“強い”農村経営を学びませんか？」(2021年10月)

ゲスト：ふなおか共生の里づくり推進協議会事務局長 平賀謙太 さん



- まちキャン塾「島の暮らしを考える」を開催 (2021年7月)  
まちなかキャンパス学生スタッフが企画したイベントを開催。まちなかキャンパスで離島での暮らしについて語る場を設けた。



## (2) SDGs 推進のための行政、経済団体、企業、NPO 等との連携

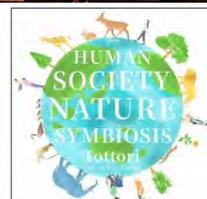
- (一財) 日本きのこセンターと連携・協力に関する協定を締結 (2021年5月)  
日本きのこセンターと連携・協力に関する協定締結式を行った。これまで日本きのこセンターの菌蕈研究所と本学は薬用きのこの研究や天然ゴムの分解に寄与する菌類の提供等で協力して来た。今回、より広範囲に連携を深めることで、森林再生による温室効果ガスの削減、菌類機能の有効利用による循環型社会の実現、キノコビジネスによる地域の活性化、そしてそれらを支える人材の育成等を指す目的で連携・協力協定を結ぶこととなった。



- 中国税理士会との寄附講座に関する協定を締結 (2021年7月)  
中国税理士会との寄附講座に関する協定締結式を行った。寄附講座の地方税に関する講義を鳥取県職員の方が行うことから、鳥取県 平井伸治 知事に立会人として参加いただき、寄附講座開設にあたって期待の言葉をいただいた。



- 公立鳥取環境大学を支援する会定期総会の開催 (2021年7月)  
公立鳥取環境大学を支援する会の定期総会を本学にて開催。定期総会の後、江崎信芳 理事長兼学長から「支援する会をはじめとするステークホルダーと連携しながら、SDGsの取り組みを含む「創立20周年記念事業」を推進して行く」と挨拶があった。また、学生・教員による活動・研究発表として、経営学部 磯野誠 教授から「創造性を引き出す - 創造的認知理論に依拠して -」、磯野ゼミの経営学部3年生から「とっとりのイラストみやげもの開発活動 - 創造性を引き出すゼミ活動として -」をテーマに発表を行った。



- ふなおかで農山村フィールドワークの実施 (2021年7月)  
「ふなおか共生の里づくり推進協議会」主催の農山村フィールドワークが実施され本学の学生が参加した。午前中は、八頭町坂田の耕作放棄地を活用した牧草地周辺の環境整備を行った。「大江ノ郷ヴィレッジ」で昼食をと



り、午後は閉校した小学校を改築した宿泊施設「OOE VALLEY STAY」や北村きこの園を見学し、協議会の拠点である古民家「古町邸」に戻り1日を振り返った。

- 学生が若桜学園の夏休み学習支援教室にスタッフとして参加（2021年7月）  
夏休みに若桜町教育委員会からの要請を受け、本学の学生が若桜学園の児童生徒に対して学習支援を行った。参加した小学生、中学生は、ドリルや問題集等の宿題のわからないところについて学生スタッフからアドバイスを受けた。



- 学長が鳥取県内東部地区の高等学校を訪問（2021年7月）  
江崎学長が、鳥取県東部地区の高等学校（13校）を訪問し、各校の校長先生と意見交換を実施。直接ご意見・ご要望をいただくとともに、各校の状況や、先生方の教育への熱い想いを確認した。



- SDGsについて考える研修会で講演（2021年8月）  
鳥取市の中心市街地活性化に取り組む女性経営者の団体「まちづくりレディース鳥取」のSDGsについて考える研修会において、経営学部 竹内由佳准教授が「一人ひとりが未来を創る？身近な取り組みから考えるSDGs ～アフターコロナを見据えて～」をテーマに講演を行った。竹内准教授は、マーケティングの視点から考えるSDGsの推進方法について語り、マーケティングの手法を活用して開発された商品やサービスの実例等を紹介した。



- 小学生向けSDGs研修会を開催（2021年8月）  
「かいけ心正こども園」では「じぶんごとぷろじえくと」としてSDGs推進活動を行っている。この度、本学のSDGsの取り組みを進めるサステナビリティ研究所に「かいけ心正こども園」からの依頼があり研修会の開催に至った。サステナビリティ研究所指導のもと本学で活動する環境サークル「TUES 地球環境を考える会」のメンバーが「かいけ心正こども園」の学童保育に通う小学生1～4年生に向けてSDGsを楽しく学ぶことを目的にオンラインでSDGsとは何かを説明した。



- 鳥取県内高等学校長との意見交換会を開催（2021年8月）  
鳥取県内の高等学校の校長先生方との意見交換会をオンラインで開催。意見交換会には県内の高等学校から31校がご参加いただいた。



- （株）鳥取再資源化研究所と覚書を締結（2021年9月）  
鳥取再資源化研究所と発砲ガラスの土壌改良を使った微生物発電に関する研究を共同で進めるための覚書を締結。鳥取市が採択された「SDGs未来都市」の計画で掲げている微生物発電の実用化とそれを利用したスマート農業の実現を目指す。



- 「公立鳥取環境大学カーシェアリング実証事業」開始（2021年10月～）  
本学学生の移動の利便性の向上を図るため、鳥取環境大学同窓会が本学に2台の車を配備して行う実証事業を開始した。同窓会は、鳥取県内でカーシェアリングを運営している智頭石油（株）と共同して2年間事業を行う。この事業が学生のキャンパスライフの充実につながることを期待される。



●創立 20 周年記念式典及び学名碑除幕式を実施（2021 年 10 月）

- ・創立 20 周年を記念して創立 20 周年記念式典及び学名碑除幕式を執り行った。
- ・記念式典では江崎信芳 学長が感謝を祝辞に代えて述べた。また、鳥取環境大学同窓会並びに公立鳥取環境大学を支援する会に感謝状の贈呈。学生を代表して学友会の会長が感謝の言葉を伝えた。神戸大学前副学長・大学院経営学研究科教授 國部克彦 氏による「サステナビリティ経営の革新」と題した記念講演会を行った。
- ・学名碑除幕式では、本学同窓会から寄贈された新しい石碑の除幕を行った。
- ・記念式典及び学名碑除幕式並びに記念講演会の動画は、本学公式 YouTube チャンネルで公開。



●科学の甲子園ジュニア全国大会に向けた研修会及び説明会の開催（2021 年 11 月）

第 9 回科学の甲子園ジュニア全国大会に向けた研修会及び説明会が本学において行われ、鳥取県代表として全国大会に出場する湯梨浜学園中学校 3 名、鳥取大学附属中学校 3 名の計 6 名の中学生が参加。研修会では、講師を本学の人間形成教育センター 久保奨 准教授が務め、パワーポイントを用いて中学生にも分かり易く丁寧に説明を行った。



●日進地区公民館のクリスマスイベント企画に学生参加（2021 年 10 月～12 月）

まちなかキャンパスのある日進地区のクリスマスイベントにおいて、本学学生が運営に参加（鳥取市の「公民館における若者によるまちづくり事業」を活用した取り組み）。10 月から、12 月のイベント本番に向けて 5 回の打合せを行い、若者の新たな発想を取り入れた企画づくり、広報チラシの作成等を行った。イベント当日は、公民館前のクリスマスイルミネーション点灯後「バルーンアート」「イカゲームの型抜き」等を行い、子供たちに大人気で順番待ちの行列ができた。



●小中学生のエコクラブ活動を学生が支援（2021 年 12 月）

修立地区公民館の公民館活動の企画運営に本学学生が参加（鳥取市の「公民館における若者によるまちづくり事業」を活用した取り組み）。活動は、主に中学生を対象にした SDGs の学習や自然エネルギーを活用した発電装置の製作に取り組んだ。その中の自然エネルギー（風力と太陽光）を活用した DIY 発電では、中学生の指導・支援アシスタントを行った。発電した電気は蓄えられ、その電気を使ってハートをかたどったイルミネーションを点灯させ、公民館玄関を飾った。



●学生団体による海洋ごみに関する調査報告会開催（2022年1月）

「学生EMS委員会」（学生による環境活動の推進・拡大を目的とする委員会）が、河川から海洋へのゴミの流入について調査を行い、オンラインで日本財団に報告した。この調査は、日本財団が主催するプロジェクトの一環として実施した。



●第18回環大コンペの表彰式開催（2022年2月）

環大コンペとは公立鳥取環境大学を支援する会が主催するイベントで、大学生活の向上と地域社会に貢献する企画を学内から募集し、優秀企画（団体）を表彰し副賞を授与するもの。第18回環大コンペは「公立鳥取環境大学生の鳥取創生～環大生による社会実践・研究・地域活性化～」をテーマに行われた。表彰式は、本学で開催し、表彰式後には参加学生から今回のコンペに対する熱い思いや、よりコンペを盛り上げるための改善策等の意見交換が行われた。なお、学生のコーディネーター役を、サステナビリティ研究所 中尾悠利子 副所長が務め、応募のあった企画には、SDGsの視点等の良いアイデアが盛り込まれた。

【入賞情報】

| 賞名        | タイトル                          |
|-----------|-------------------------------|
| 第1位       | あずプロ～地域の学生と企業で鳥取を元気にするプロジェクト～ |
| 第2位       | 地域密着型買い物代行サービスについて            |
| 第3位       | 鳥取県東部動物事故啓発活動について             |
| 奨励賞・企画賞   | 学生コーディネーター活動による人材育成と発掘        |
| 奨励賞・アイデア賞 | エンカール教育のためのプログラム開発            |
| 奨励賞・探求賞   | 鳥取県東部における溜池環境の保全と新たな保全活動の模索   |



●鳥取商工会議所工業部会とのSDGs連携事業

・SDGsの取り組み推進を目的に鳥取商工会議所工業部会と本学の教員及び学生が連携し、工業部会員企業の環境分野における課題解決に取り組んでいる。この課題解決を通じて、本学ではSDGsの目標達成並びに学生の成長を目指す。この連携事業は、SDGs推進組織であるサステナビリティ研究所が主導している。

①（株）松田安鐵工の鋳物砂等の課題解決

鋳物製造には、排出される鋳物砂等とその処分費用の課題がある。2021年9月、環境学部 金相烈 教授とそのゼミ生が同社を訪問し、製造工程で排出される鋳物砂等（生砂（生土を成型したものをばらした砂）、炭酸砂（炭酸ガスで成型したものをバラした砂）、鉄砂（鋳物をグラインダーで研磨等した後の周辺の砂）、耐火物くず砂等）を採取（サンプリング）。「鋳物砂等の環境影響評価等」の研究を進めている。12月、金ゼミが同社を再度訪問し、サンプリングした鋳物砂等の分析結果を、より精度の高い内容とするために、ヒアリング及び鋳物砂等の再サンプリングを行った。



## ②マルサンアイ鳥取（株）の豆乳おからの課題解決

豆乳製造には、おからの排出及びその処理の課題がある。2021年9月、金ゼミが同社を訪問し、おからを乾燥させて処理するフロー、環境負荷（燃料、電力）、経費（燃費費、電気代）、おからを飼料として処理する場合の現状の搬出先と距離並びに輸送における環境負荷（燃料費）等のヒアリングを実施。「おからの有効利用等」の研究を進めている。10月、環境学部 門木秀幸 准教授（サステナビリティ研究所研究員）とそのゼミ生が同社を訪問し、（一財）日本きのこセンター菌茸研究所及び（公財）鳥取県産業振興機構と情報交換会を実施した。2022年2月、門木ゼミがオンラインで同社の他、（株）さんれいフーズ、菌茸研究所、鳥取短期大学、鳥取県西部総合事務所、鳥取商工会議所、産業振興機構とおから有効利用に関する研究会（略称：おか研）を開催した。



## ③菌茸椎茸協同組合の発砲スチロールフタの課題解決

椎茸種菌（椎茸の形成菌等を固めたもの）には、そのフタに発砲スチロールが使われており、栽培地で発砲スチロールがゴミとして散乱し、やがてマイクロプラスチックの問題につながる恐れがある。金ゼミ生及び門木ゼミ生が「発砲スチロールに代わる生分解性材料のフタを探す」研究を進めている。金ゼミは、発砲スチロール素材と代替フタ素材の紫外線の影響についての試験を実施。2022年3月、キャンパス内で原木しいたけの栽培実験を開始。門木ゼミは、2021年5月、キャンパス内で原木しいたけの栽培実験を開始し、12月に椎茸の発生を確認。11月、同組合の製造工場を訪問し、中間報告と椎茸種菌の生産機械を確認。同月、大阪のプラスチック会社を訪問し、代替フタの生産に関して打合せを実施した。



## ④令和3年度報告会（2022年2月）

令和3年度の事業総括として進捗状況及び成果等を広く共有するために報告会を開催。

会場：鳥取商工会議所大会議室 ※会場参加者を限定し、YouTube ライブ配信実施。

概要：①挨拶、②事業概要説明、

### ③令和3年度取組報告

I 松田安鐵工 一発表者：金ゼミ

II マルサンアイ鳥取一発表者：金ゼミ、門木ゼミ

III 菌茸椎茸協同組合一発表者：金ゼミ、門木ゼミ

### ④令和4年度取組

対象企業：三洋テクノソリューションズ鳥取（株）

担当者：経営学部 磯野誠 教授とそのゼミ生



### (3) 地域住民向けのSDGsの情報提供及び地域住民と教員及び学生等が議論を行う場の提供

#### ●SDGs 地域塾の実施（環境学部）

- ・SDGs に関わる地域課題について、学生と地域住民等が対面して課題を共有し、考え、互いに気づきを得るための意見交換の場。SDGs 達成に向けた取組み推進と地域課題の解決に貢献することを目的とし、以下のとおり実施した。

- ①日南町細田商店様との放棄竹林の資源化、竹炭の商品化についての意見交換を実施した。  
(2021年10月)
- ②五しの里さじ地域協議会とのグループワークを実施した。  
(2021年10月)
- ③因習和紙紙漉き体験と意見交換を実施した。(2021年12月)



#### ●SDGs カフェの実施（経営学部）

- ・気軽に語り合えるカフェ形式で、設定したテーマについて参加者が自由に意見交換する場。学生主体で企画・運営し、以下のとおり実施した。

- ①“ETHICAL”に食を楽しもう(2021年11月)  
概要:「フードロス」をテーマとして、ETHICALな食の実態を知ることがを目的に、2名の卒業生が講師として登壇。有機農業の実践と食料廃棄を減らす取り組みを講演。3年生が企画し、司会進行等を行った。
- ②甘いバナナの苦い現実(2021年11月)  
概要:身近な果物である「バナナ」の生産現場の課題をドキュメンタリー映画「甘いバナナの苦い現実」の上映を通し知り、持続可能な開発とは何かを考えることを目的に実施。3年生が企画し、司会進行等を行った。
- ③「もったいないキッチン」見る・知る・考える(2021年12月)  
概要:「フードロス」の課題について、映画の視聴(見る・知る)を通し考えることを目的に、3年生が企画し、司会進行も行った。映画「もったいないキッチン」を上映し、上映後には参加者同士でペアを組み、感想や意見を出し合いワークショップを行った。
- ④ガクチカスタートアップセミナーやったもん勝ち!!(2022年1月)  
概要:「ガクチカ」をテーマとして、やってみよう!を地域で実践することでキャリアデザインし、就活時のガクチカの強みにしてもらうことを目的にSDGsカフェ拡大版として開催した。
- ⑤鳥取の生き物をもっと知ろう!～地域の生物多様性を考える～(2022年3月)  
概要:「鳥取県生物多様性地域戦略」をテーマとして、生物多様性の価値や重要性と県内で行われている保全活動の認知度を高めることを目的に、3年生が企画し開催した。



●令和2年度研究成果報告会の開催

サステナビリティ研究所と地域イノベーション研究センターの研究者による令和2年度研究成果報告会を共同開催した。(2021年7月)

開催形式: Webex Events を使用したオンラインによるライブ配信

テーマ: 持続可能な社会に向けて<<サステナビリティ研究所>>

麒麟の知を深く知る<<地域イノベーション研究センター>>

内容: 研究成果報告

報告者: <<サステナビリティ研究所>>

| 学部   | 氏名     | 職名        | 備考   |
|------|--------|-----------|------|
| 環境学部 | 田島 正喜  | 教授 (所長)   | 開会挨拶 |
| 環境学部 | 徳田 悠希  | 准教授 (研究員) |      |
| 環境学部 | 門木 秀幸  | 准教授 (研究員) |      |
| 経営学部 | 佐藤 彩子  | 講師 (研究員)  |      |
| 経営学部 | 中尾 悠利子 | 准教授 (研究員) |      |

<<地域イノベーション研究センター>>

| 学部   | 氏名    | 職名         | 備考   |
|------|-------|------------|------|
| 環境学部 | 山本 敦史 | 准教授 (研究員)  |      |
| 経営学部 | 竹内 由佳 | 准教授 (研究員)  |      |
| 環境学部 | 角野 貴信 | 准教授 (研究員)  |      |
| 環境学部 | 太田 太郎 | 准教授 (研究員)  |      |
| 環境学部 | 戸苅 丈仁 | 准教授 (研究員)  |      |
| 経営学部 | 磯野 誠  | 教授 (研究員)   |      |
| 環境学部 | 浅川 滋男 | 教授 (研究員)   |      |
|      | 足利 裕人 | 名誉教授 (研究員) |      |
| 環境学部 | 吉永 郁生 | 教授 (センター長) | 閉会挨拶 |

※サステナビリティ研究所、地域イノベーション研究センター共に、報告の元となった論文等を纏めた事業報告書を発刊し、ステークホルダー等に配布。

●SDGs オンライン講座

- ・本学の SDGs 取組宣言の理念にある「持続可能な社会」を実現するため、本学の有する教育リソースをオンラインで視聴可能な講座 (動画コンテンツ) として提供するもの。そのことにより、高校生及びその学校並びにステークホルダー等の持続可能な社会の発展に関する知識向上と意識改革を図る。2021年度は11本の動画コンテンツを制作、公開。

【2021年度制作】

①サステナビリティ研究所 提供 (「SDGs 基礎」ダイジェスト版)

| テーマ  | 教員氏名等          |
|--|----------------|
| バイオマスでの水素製造がもたらす持続可能なエネルギー供給<br>エネルギーモデルの地球環境への有効性 | 環境学部 田島正喜 教授   |
| SDGs と企業経営   | 経営学部 中尾悠利子 准教授 |
| 「地球の気持ち」に寄り添った社会を考える<br>～ジオパークと「持続可能な開発」～          | 環境学部 柚洞一央 准教授  |
| 持続可能な社会における土壌資源管理とその指標化                            | 環境学部 角野貴信 准教授  |
| 「自由」から SDGs を考える-特に環境との関わりに注目して-                   | 経営学部 高井亨 准教授   |

|                                |               |
|--------------------------------|---------------|
| 感染症の歴史と SDGs                   | 経営学部 谷口謙次 講師  |
| ②とっとり SDGs Eye! 提供             |               |
| テーマ                            | 教員氏名等         |
| キノコを使ったゴムの再資源化プロジェクト           | 環境学部 佐藤伸 准教授  |
| マーケティングで社会を変える                 | 経営学部 竹内由佳 准教授 |
| 地球にやさしい森林保全と木材利用               | 環境学部 根本昌彦 教授  |
| ごみから見直す私たちの経済                  | 経営学部 石川真澄 教授  |
| ③公開講座 活用                       |               |
| テーマ                            | 教員氏名等         |
| SDGs と廃棄物～持続可能な廃棄物処理に関する正しい知識～ | 環境学部 金相烈 教授   |

#### 4. 広報活動・情報発信

##### (1) 本学 Web サイト、大学案内等で本学の SDGs の取組や学生等活動を掲載

- 外部への発信・普及啓発を目的に、本学公式 Web サイト上に開設した SDGs 特設ページ（公式 Web サイトのトップページにバナーを設け、大学 PR にも活用）に SDGs に関連する活動のレポート等を継続して掲載。
- 図書館に設置している SDGs コーナーを継続。学生及び一般利用者への情報提供を充実。
- 学外から表彰を受けた学生を本学公式 Web サイト上に掲載。
  - ・本学学生 2 名が人名救助に貢献し、鳥取警察署から表彰を受けた。



- ・環境学部 遠藤由美子 教授の指導の下、チーム遠藤の学生 6 名が、とっとりプラットフォーム 5+α デザインコンペ 2021 「ほっと・くつろぐポケットパーク」アイデアコンペで、優秀賞を受賞した。



##### (2) 本学主催 SDGs イベントの広報物（チラシ等）へ SDGs のロゴ、アイコンを使用

- 本学が主催する SDGs を含む様々なイベント等の広報物に SDGs のロゴ、アイコンを使用し SDGs の普及を推進した。
- 鳥取県が開設したポータルサイト「とっとり SDGs」に「とっとり SDGs パートナー」として、本学の「SDGs に関する取組」を掲載した。

##### (3) 学生等の SDGs への関心を高めるための積極的な情報発信

- 「1. 教育」「2. 研究」「3. 地域貢献・地域連携」「4. 広報活動・情報発信」「5. 大学運営等」

におけるイベント等を介して、学生含む教職員及び一般の方等に SDGs に関する積極的な情報発信を行い、SDGs への関心を高めた。

## 5. 大学運営等

### (1) EMS と SDGs とを関連付けし、PDCA サイクルを活用することによる目標の達成

- 環境目標・実施計画に SDGs に関する目標を設定し SDGs を日常業務として継続。
- 環境マネジメントシステムの有効性及び各実行組織が定める環境目標・実施計画の達成状況を確認し、必要に応じてその改善を図ることを目的に、内部監査を実施・継続。

### (2) 多様な学生支援を行うことにより「誰一人取り残さない」ように努める

- 「授業料減免等による経済的支援」や「日本人学生による留学生の生活支援体制（外国人留学生サポーター）の構築」「学生の健康相談、メンタルヘルス相談等健康支援」「ハラスメント相談窓口の設置」等の継続。
- 教育研究棟 1 階 4105 教室と情報メディアセンターのグループ学習室を「スチューデント・コモンズ」として新しく整備。「スチューデント・コモンズ」とは、学生同士の学びの交流と相互啓発を促進する場で、個人学修やグループワーク、休憩、相談のスペースを設けている。

### (3) 教職員等に対する SDGs 啓発、研修等の実施

- 「1. 教育」「2. 研究」「3. 地域貢献・地域連携」「4. 広報活動・情報発信」「5. 大学運営等」におけるイベント等を通じて、教職員等に対する SDGs 啓発、研修等を実施した。

以上